

エゾシカの捕獲

道民にとって身近な存在のエゾシカは、春から秋までの長期に渡って田んぼや畑に出没し、小麦や大豆、ビートなどの食害や、農作物の踏み倒しなど、様々な被害をもたらします。近年生息数が増えるにつれて、農林業被害も深刻化して

います。本年度はくくり罠という手法を用いて、山林と農地の境界地帯で6月

から12月にかけて捕獲活動を実施しました。捕獲による被害減少効果を正確に調査することは難しいものの、近隣農家の方から「今年は鹿の出没が少なく感じた」というお声もいただき、少なからず成果を実感することができました。引き続きエゾシカとの共生と被害防止のバランスを意識しながら活動していきます。



ヒグマの対応

近年全国的に熊の出没が話題に上りますが、美唄市内でも本年度に通報があったものだけで17件の出没事案が発生しました。通常は森で暮らしていて私たちの目に触れることも少ないヒグマですが、山のエサ不足などが原因で住宅地へ現れてしまうこともあり、人間に危険が及ぶことも考えられます。私はヒグマ出沒時に、市役所、警察、猟友会と連携して現地調査や注意喚起、目撃地域でのパトロールなどの対応を実施しながら、ヒグマの生態を理解するように努め、地域の安全を守る活動を行っています。

守る。



アライグマの回収

外来種であり繁殖能力が高いアライグマは道内で徐々に生息域を広げていて、市内でも近年多くの農作物被害などが確認されています。美唄市では農家や住民に箱罠を貸し出し、積極的な捕獲を行っており、私も捕獲個体の回収作業のサポートなどに携わりました。

活かす。

美唄市は夕張山地から続く森林地帯と、日本屈指の大きさを誇る石狩川に挟まれ、その自然豊かな環境にはエゾシカやヒグマ、キツネをはじめとした多様な野生動物が生息しています。そうした動物たちは生態系を構成する大切な存在である一方で、農林業や生活環境への被害をもたらしてしまうことも少なくなく、様々な対策が求められています。私たちが暮らす地域や環境を守りながら、捕獲個体を資源として活かし、価値や文化を作っていくにはどうすれば良いのか、日々考えながら活動しています。

「美唄ジビエ」の発信

捕獲された動物の多くが廃棄されている現状がある中で、地域資源として持続的に活用する取り組みとして、2022年に美唄市にオープンした食肉処理施設では、エゾシカを中心にヒグマ、アライグマなどの捕獲個体を、ジビエ肉に加工し販売しています。野生動物による被害軽減や、これからの美唄の地域振興を担う事業として、私も多くの事を学ばせていただきながら、同時にエゾシカの解体や商品開発などの活動で協力させていただいております。国や道の認証を受けたジビエの食肉処理施設で作られた美唄のジビエは、肉質や安全性のレベルが高く、とても美味しいお肉です。美唄の新しい名物として愛していただけよう、様々なイベントなどでご紹介させていただきました。



皮・角・骨の活用研究

動物は古来から捨てる場所がないと言われ、様々な形で私たちの生活に取り入れられてきました。しかし現在、捕獲された個体はジビエ肉としての活用は進んでいるものの、その他の部位はほとんどが廃棄されている現状があります。私はそうした廃棄を減らして、価値ある資源として発信していくことを目的に、皮（革）や角、骨などを加工した商品の開発研究を行っています。地域おこし協力隊の任期終了後に美唄で定住していくための生業の一つとして実現させることが目標です。



作る。

